

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2010年11月1日

86号



青年達、泥田で魚つかみ取り。第二農園の入り口近くの池の水をポンプで汲み上げた後、泥田に 青年達が入り、カスクード、うなぎなどを捕まえました。

レダに滞在する青年達への特別研修会

(十月一日～十一月九日)

研修目的

一・青年がレダの開拓活動を体験することによって、奉仕精神(ために生きる)学ぶ。

二・レダ開拓を担う後継者を目指す。

・対象者 : 古市、平野、西川、佐藤 (4名)
スケジュール

三日研修「レダ開拓の意義と目的について」

第一週 農業、牧畜、養殖

第二週 トラクター運転、水作り、植樹園庭園管理、建物管理(掃除)

第三週 釣り、乗馬、インディヘナ村訪問の準備

(歌、ゲーム、スポーツなど)

第四週 インディヘナ村体験交流(植樹等)

第五週 パラグアイ・ツアー(スペイン語学習)

青年達は第一ラウンドから大山組で、支流奥レテロの近くで、三四日前に死んだ牛が異臭を放って、黒い剥げ鷹も何羽もたむろして来ている為、穴を掘り葬ってあげる作業でした。第二ラウンドは、昨日に引き続き第二農場で、水草の処理、が行われました。かなりの力仕事ですが、懸命に頑張ってくれました。昼前に突然雨が降り出し、皆濡れながら帰って来ました。

午後は休むように指示しましたが、大山大和田先生達の為のロッカー組み立てで頑張ってくれました。

毎晩報告反省会を成し、感想文も書いてもらっています。

九月の頃はどうかなるのか心配の向きが多かったのですが、十月一日から三日修を成し、四〇日研修で新しい出発を成し、今では皆前向きな姿勢で、これからが楽しみなって来ました。(飯野先生記)





四名の青年研修実践の第一日、二日は、上山、大山組みの傘下で、第二農場の入り口近くの池が、数年放置されて、水草で覆い尽くされた為、水草撤去を成し、イケスの一部として利用できたという事で作業が行われました。

最初、鍬で水草を池の中から引き上げようとしたが、繋がっていて、根っこが水と泥をしっかり含んでいる為、余りに重く、能率が悪いという事で、ロープを水草に巻き付けてトラクターで引っ張り上げることにしました。魚と共に蛇も住んでいるので、素足で入るのに躊躇われますが、現地労働者は慣れたというか、勇気があるというか、ぬかした池に入って行きます。ボートも出して応援です。やはりトラクターは力があり、見事に水草引き上げ成功でした。

『朝からエスペランサ村へ、上山、伊達氏と私の三人で行って来ました。十月末に研修の青年四人をインディヘナ村への奉仕に行くため、その準備の打ち合わせに行って来ました。村長と逢い、いろいろ話し合った結果、以前ボランティア隊が植樹した公園内のダメになったニームの木の新え替えと、新たに園内に二列植樹することで合意、40本程穴を掘って準備してもらうことにしました』

飯野先生より



VISITAN PARAGUAY PARA CONSERVAR NUESTRO AMBIENTE

Universitarios japoneses realizan obras sociales

Lejos de preferir la calidez de alguna playa del Caribe o visitar los atractivos turísticos de los países desarrollados, un grupo de universitarios japoneses optaron por visitar nuestro país para ayudar a comunidades indígenas del Chaco y plantar arbolitos en la ciudad de Minga Guazú.



En Minga Guazú, la delegación japonesa plantó arbolitos con las autoridades de la ciudad. Los nipones vienen cada año a nuestro país para realizar este tipo de trabajo.



Los universitarios japoneses junto con los indígenas de la comunidad de 14 de Mayo pintan una de las paredes de la escuela.



Antes de retornar a su país, estuvieron por nuestra redacción para comentar las anécdotas que vivieron en Paraguay.

Desde el 2000, la Fundación para el Desarrollo Sustentable en las Américas del Norte y del Sur invita a los universitarios nipones a visitar Paraguay para prestar servicio social, sobre todo en las comunidades indígenas.

En anteriores ocasiones, los estudiantes construyeron escuelas para los nativos de la ribera de río Paraguay y plantaron árboles en sus asentamientos. En esta ocasión, llegaron hasta la localidad de 14 de Mayo, Alto Paraguay, donde pintaron con los jóvenes estudiantes el local escolar. También plantaron arbolitos con los nativos, con quienes además intercambiaron su cultura.

"Fue una experiencia extraordinaria porque, a pesar del idioma que nos separa, pudimos entendernos con señas. Los nativos nos llevaban

tornar a Puerto Leda, donde por primera vez se bañaron en un río. Este hecho fue muy comentado por los jóvenes, que según dijeron quedarán a sus amigos que quedaron en el Japón.

Luego de esta estadía en el

ción, Michihito Sano, destacó que esta organización asumió el compromiso de colaborar en la protección del Pantanal, por eso cada año reforestan la zona y realizan obras sociales entre pobladores del departamento

apreciar, estimar y proteger el ambiente", expresó Sano en su discurso ante las autoridades y estudiantes.

Los estudiantes que estuvieron en nuestro país son: Shuhei Fujiwara, Naotaka Watanabe, Naohiro Morika-

El Padr

Lc 15, 1

Hno. Joen

El Evangelio del drama y de encontrar lo que cuando una per Dios y cambia

La parábola, e sin embargo, e misericordioso Muchos de pródigo: exigir jamos por sen rochamos todo revolcándonos

Ojalá que las la misma deci arrepentirse del la casa del Pad El Padre mu recibir al hijo corrió para abra que significa de se preparara to

Este es el i mostramos y mucho más q ideologías. Un samente, si no delirios de gra Sin embargo mayor, que rev hermano, y no recuperar a su

Podemos tar hijo mayor: en que Dios trate como cretino, t yo condeno a u

En verdad, entender que misericordioso Observemos mayor, que se dado un ternec modo infinitam pre conmigo, y

Sea que nos pródigo" o el dudemos del ar Recordemos plasma de m Reconciación Confesión.

Inaugu Virgen

La comunidad barrio Pettrossi este miércoles ur a su patrona.

Responsables construcción se El objetivo fue adicionales para se recuerda este

日本の大学生が社会奉仕活動
我々の国の環境保護の為にパラグアイを訪問
カリブのリゾート地や、西欧のツーリスト向け
娯楽施設を訪れるのではなく、日本の学生のグ
ループはチャコの原住民コミュニティを助け、ミ
ンガグアスの町に木を植えるために我々の国を
訪れた。

西暦二〇〇〇年より、南北米福地開発財団は
日本の学生たちをパラグアイに招待し、社会奉
仕活動、特に原住民コミュニティに対する援助を
行ってきた。過去においては、学生たちはパラ
グアイ川沿岸の原住民に対して学校を建設し、
彼らのコミュニティに対して植林を行ってきた。

今年は、アルトパラグアイ州の14 de Mayoを訪
れ、その子供たちと一緒に学校のペンキ塗りを
行い、彼らと植樹をし、文化交流をなした。学生
の一人、石村聡史氏は、“言葉の壁があつたにも
かかわらず、ジェスチャーで会話をなし、彼らは
我々を彼らの家まで連れて行ってくれ、厳しい環
境の中でどのように住んでいるかを見たその体験
は他では得られない忘れられない体験となった。”
と語った。

カトレセマジョ村から次にバイアネグラに
行き、現地の青年たちと植樹をなした。そこで二
日間滞在し、その後、プエルトレダに向かい、そ
こで始めて川に入って体を洗った。



この体験は、日本の青年たちにとって印象的な
ものとなったようで、彼らの多くが、日本にいる
友人にこの体験を話したいと語った。

チャコでの様々の活動の後、アスンシオンへ戻
り、ミンガグアスへ行き、そこでその地域の五十
校に対して苗木を贈呈した。そこにおいて、日本
の学生たちは、地域の中高生やその市の職員たち
と植樹を行った。

この地において、財団の副会長である佐野道准
氏は、『我々の団体はパンタナールの保護に尽力
しており、それ故毎年、この地域の植樹をしてお
り、アルトパラグアイ州の住民、特に原住民のコ
ミュニティに対して、社会奉仕活動を行っており、
そのこの箇所に学校建設をなしてきました。』と
語り、更に、国の将来はその国の青年たちを如何
に教育していくかにかかっております。ミンガグ
アスに来て植樹活動をする理由は、青年たちが環
境に感謝し、尊重し、保護することを学ぶため
であります。』とミンガグアスの市の職員や学生た
ちに対するスピーチの中で述べた。

我々の国を訪れた学生は藤原周平、渡辺尚孝、
森川修啓、木口泰孝、池口興樹、石村聡史、田中
国隆、山上園誉、富里情美、小舛利奈、加藤晴香、
石田佳代そして、日本の団体より事務局長の柴沼
邦彦氏と副会長の飯野貞夫氏が同行した。



アメリカの会員への報告会 (十月三日)

アメリカに在住する神山会長始め、南北米の会員の方々に第十回国際協力青年奉仕隊の活動をパワーポイントで柴沼事務局長が報告をしました。参加者は二十名ほどでしたが参加した青年達のボランティアに参加した感想に特に感動したとの感想が多く寄せられました。

参加者の中には既にシニアボランティアとしてレダ開拓に参加した会員も多く、また今回参加した青年と同じ年代の子供達を持つ年代の方が多かったこともあり、第十回の奉仕隊はアメリカからも参加させ、日米共同の奉仕隊を結成することが会議でも決定しました。

第十三回 ピースライフセミナーの御案内

一雨ごとに秋深くなっていますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

国や世界に向かうべき私達自身あるいは私達の家庭がどのような方向性、理念を持ってさまざまな問題に取り組み、対処していくかは誰にとっても重要な課題であると思います。このような時私達は「価値ある生き方」「真実な生き方」を深く知って行動で生きるようにしたいものです。

第十三回ピースライフセミナーで「自分の人生」と「世界の環境問題」を見つめなおしてみませんか。新しい本来の自分を発見し、希望ある未来を実現したいと願われる皆様のピースライフセミナーへの積極的なご参加を心からお待ちしております。

☆開催日時 平成二十二年十二月四日(土)～五日(日)
☆開催場所 川崎市民プラザ

講義 「人生の目的と価値」 柴沼邦彦先生

講義 「パンタナール開発と保全」 高津啓洋先生

講義 「Rev. Moonとの出会い」 櫻井設雄先生

活動報告 「南北米福地開発協会の活動について」

詳しくは事務局に

第十回国際協力青年奉仕隊に参加し、東京近郊に住んでいる隊員が六名、南北米の事務所に集まり、活動中に各自が撮った写真を交換し、活動中の思い出を語りながら、笑いの絶えない交流の時間をもちました。



活動から帰り、多くの友人に南米での体験を話す中で、是非、次回の奉仕隊に参加したいと希望する友人が多く出てくるのと、より充実した内容を計画しようと決意を新たにしました。

地球家族として
自然を守りましょう

南北米福地開発 協会会員の募集

南米、パラグアイパンタール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒二一三〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口二一十一番十五

岩崎ビル四F

電話

〇四四一八二九一二八二二

Fax

八二九一二八二〇

会費納入

郵便口座 〇一七七六八〇四七一

一〇一八

代表 柴沼邦彦

E-MAIL

office@asd-nsa.jp

ホームページ

http://www.asd-nsa.jp